

Supplément au Dictionnaire Chinois-Latin		
A F -108	1819	Klaproth補遺
ド・ギーニュ編の“Dictionnaire Chinois, Français et Latin”の補遺版。		

- ◆ 1813年、ド・ギーニュは、ジェモーナ神父の手稿本を原本として、漢字-フランス語-ラテン語の辞典を編集・出版した。しかし、この辞典の評判は芳しくなく、「原著にフランス語を加えたのみだ」との批判が加えられた。最も激しく批判したのは、ドイツの東洋学者ハインリッヒ・ユーリウス・クラプロート(Heinrich Julius Klaproth 1783-1835)であった。

本書は、クラプロートがパリで出版したもので、ド・ギーニュの辞典の補遺版である。サイズと装丁はド・ギーニュの本編と全く同じであるが、ページ数は168ページと、約五分の一である。最初のページに「漢字西訳補 HÁN TSÚ SỸ Y POU, OU SUPPLÉMENT AU DICTIONNAIRE CHINOIS-LATIN」と記されている。次のページがメインタイトルで、次のような意味の記載がある。

「バジル・デ・ジェモーナ神父著 中国語-ラテン語辞書 (1813年ド・ギーニュ氏の手により印刷) 補遺」「プロシャ王フレデリック・ギョーム三世の勅命によりユーリウス・クラプロートが出版」「パリ 1819年 帝国印刷局」

(フレデリック・ギョーム三世とは、ナポレオンを追放したプロシャ王フリードリヒ・ヴィルヘルム三世のこと。)

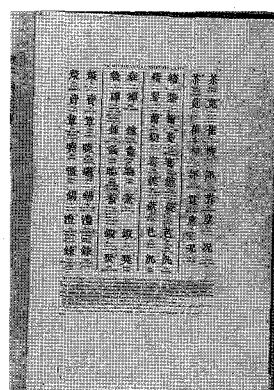
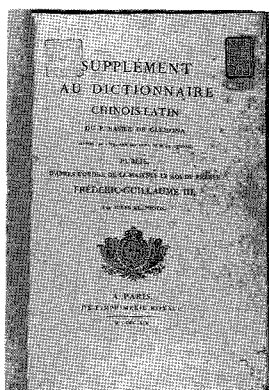
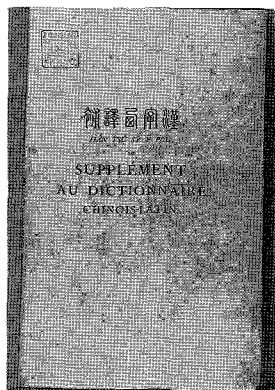
タイトルに原著者のジェモーナ神父の名を大きく掲げ、ド・ギーニュを単なる出版者の地位に落としている点が興味深い。あえて補遺版を出版したクラプロートの姿勢が、タイトルの標示の仕方に現れていると言えよう。さらに、本文冒頭にはド・ギーニュを批判した長文の論文が置かれ、ド・ギーニュが原著を書き換えた部分の誤りの指摘や、削除した部分の復活などが論じられている。

クラプロートは、ベルリン大学の化学の教授の息子に生まれた語学の天才で、14歳で中国語を学び、19歳でいくつもの論文を書いている。1804年から1811年までロシアに滞在し、シベリア・アジアの民族の民俗学・言語学の第一人者となった。その後1815年以降、1835年に没するまでパリで中国研究を続けた。その間、林子平の『三国通覧図説』(天明6年 1786)の一部を仏語訳し、出版するなど、日本語研究でも第一人者であった。

* 複製本、マイクロフィルムあり。

<参考文献> 「ナポレオン大帝勅版・「漢仏羅辞書」の出版をめぐる人々の物語」

(『葵』18号 所収) (SZ01-3)



24 漢仏羅辞典補遺(クラプロート補遺)
(3点とも)